

技術士 2次試験に合格して



小竹 元己

(こたけ げんき)

勤務先

株式会社クマシロシステム設計

解析設計部

〒060-0061

TEL 011-632-1010 FAX 011-632-1011

E-mail kotake@ksfnet.co.jp

■ 専門：水産部門(水産土木)

1. 自己紹介

私は生まれも育ちもずっと北海道で、大学では水産学を学び、養殖について研究していました。その後、2016年に現在の会社に就職し、漁港・港湾におけるコンサル業務に携わっております。

2. 受験動機

技術士という資格は、就職した後、会社の先輩から教えてもらい知りました。その時は、合格率が低くて難しい資格なんだな程度の感想しかありませんでしたが、仕事をとおして様々な技術士の方と出会う中で、仕事に対する責任感や意識の違いを感じ、自分も取得したいと思うようになりました。

3. 技術士試験について

試験勉強では、とにかく白書や省庁のガイドライン・手引きを読んで、課題・問題点・解決策になりそうなキーワードを抽出して、整理しました。また、自作の問題を中心に必須・専門科目の論文を作成し、先輩技術士に添削・コメント頂きながら、勉強を進め、試験本番ではそこそこの自信もありながら、試験に臨めました。

試験本番では、必須問題を終え、専門科目では、いつもと傾向が違うなあと違和感を感じながらも、全ての設問に回答して試験を終えました。その後、受験生同士で感想を話したときにお互い話がかみ合わず、問題冊子を見返したところ、私がすっかり受験する専門科目を間違っていることが発覚し、大変ショックをうけた事を記憶しています。これが、私の1回目の受験のあらすじです。(なぜか、専門科目の評価はBでした。)

2回目の受験では、前代未聞のミスの悔しさから、過去問に加え、水産土木部門を網羅するように自分で問題を作って、先輩技術士の添削・コメントを踏まえて、修正することを繰り返して、1回目比べ

かなり勉強しました。その結果、2回目にして筆記試験に合格することができました。その後の口頭試験も、先輩技術士の方々にご協力いただき、なんとか技術士に合格することができました。

皆さんは、大丈夫だと思いますが、問題の間違ひには気を付けましょう。

4. 試験勉強に大事なこと

試験勉強は、まずは、勉強期間をとおしてやる気を維持することが必要だと思います。4月に受験申込をした段階は、やる気に満ちて勉強意欲もありますが、その後、関係資料やガイドライン等が多く、そのボリュームに圧倒されて、少しずつやる気が減ってきます。また、勉強の進捗が悪い時は、「そもそも、自分は合格できるような人間じゃないのでは?」とか、仕事が忙しいと「こんな環境で試験なんか受かるはずない!」と不安やイライラが襲ってきますが、そんな時は、「でも結局、自分なら受かるけどね」と根拠はないけど、謎の自信を心でつぶやき、やる気を復活させて、勉強を再開していました。何か大きな目標を達成しようとするときは、このように根拠のない自信が私には大事だなと感じました。

また、受験仲間の存在も大きく、お互いの勉強の進捗を確かめて、自分の進捗が遅れていると危機感を感じたり、最新のガイドライン等の情報を共有することで、効率的に勉強出来たと思います。

5. 今後に向けて

技術士合格により、ようやく専門分野を拠り所とした資格を得ることができました。しかし、まだまだ経験も少なく、専門家のスタートラインに立ったばかりなので、これからも、継続研鑽をとおして、最新技術を習得し、周囲の人々や地域に貢献できるような技術士を目指したいと思います。